

大阪府営
吉井住宅

1991~

南海電鉄忠岡駅から徒歩10分の利便性の高い市街地立地の高密度大規模公営建替住宅である。(全体8.83haの内、4.3haを対象に、計画戸数603戸)

周辺地区には公園が少ないため、計画地内にまとまった公園を設け、都計道路をはじめ、周辺に寄与できる計画地内道路網を整備する。また、開発形態は、周辺の戸建住宅に配慮して周縁部を低層化、中央部を高層化することにより、高密度化と同時に周辺部にヒューマンスケールな街なみを形成している。

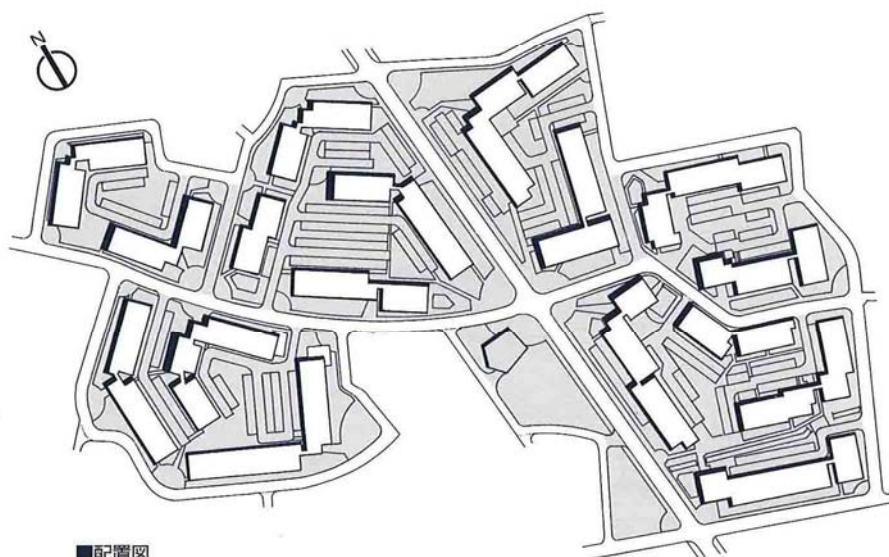
また、都計道路に二分された東西各ゾーンを3つの住区に分け、それぞれ住棟に囲われた領域性のある緑のオープンスペースを確保することにより、コミュニティの形成を目指している。

住棟構成は低層、中層、高層住棟を組み合わせた沿道型住棟配置により、きめ細かな高密度を図るとともに、変化と連続性のある沿道景観を創出する。また、一階部をコミュニティスペースや駐車場として積極的に利用し、高密度開発に対応している。

住棟計画では、構面内廊下による廊下部分のコミュニティスペース化と住棟ファサードの演出を図る。また、3構面構成による上下層の構造断面の均一化、構面内組込共用部による施工の簡素化、大型フラットスラブや水廻りユニットの導入により、省力化に対応した工法の導入を試みた。



■住棟構成
低・中・高層住棟の混用・連続化



■配置図



■周辺の戸建住宅に配慮した山型開発



■コモンスペースより住棟を見る